

Oracle® Hardware Management Pack 2.2.x
リリースノート

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS. Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel、Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

ドキュメントとフィードバック	5
このドキュメントについて	5
変更履歴	6
Oracle Hardware Management Pack リリースノート	7
ソフトウェアリリースの情報	7
インストールの注意事項と問題	11
ソフトウェアリリース 2.2.x の既知の問題と注意事項	17
SPARC M5-32 サーバーでの Oracle Hardware Management Pack の使用	38

このドキュメントの使用方法

このセクションでは、製品情報、ドキュメントとフィードバック、およびドキュメントの変更履歴を示します。

- 5 ページの「ドキュメントとフィードバック」
- 5 ページの「このドキュメントについて」
- 6 ページの「変更履歴」

ドキュメントとフィードバック

Oracle Hardware Management Pack の関連ドキュメントには次のようなものがあります。

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	http://www.oracle.com/documentation
Oracle Hardware Management Pack	http://www.oracle.com/goto/OHMP/docs
Oracle ILOM 3.0	http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs
Oracle ILOM 3.1	

このドキュメントについてのフィードバックは次からお寄せください。

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

このドキュメントについて

このドキュメントは、PDF および HTML の両形式で利用できます。トピックに基づく形式(オンラインヘルプと同様)で情報が表示されるため、章、付録、およびセクション番号は含まれません。

特定のトピック(ハードウェア設置やプロダクトノートなど)に関するすべての情報が含まれる PDF を取得するには、ページの左上にある PDF ボタンをクリックします。

変更履歴

このドキュメントセットには次の変更が加えられています。

- 2010年9月、初版発行。
- 2011年1月、『インストールガイド』および『Management Agent ユーザーズガイド』を改訂。
- 2011年7月、ドキュメント URL を改訂。
- 2011年9月、ソフトウェアバージョン 2.2 に合わせて改訂。グラフィックインストーラの変更点を記載。
- 2011年11月、Oracle Solaris OS 11 のインストールに関連する情報とインストールの前提条件に関連する情報を統合するために改訂。
- 2012年1月、Emulex および QLogic のサポートに関するインストーラの変更点(新しいパッケージ名)を反映し、ソフトウェアパッケージの依存関係を説明するために改訂。
- 2012年3月、fwupdate、ilomconfig、raidconfig の機能を改訂。新しいツール ubiosconfig を追加。
- 2012年4月、2.2.1、2.2.2、および 2.2.3 の更新を追加。
- 2012年9月、2.2.3a の更新を追加
- 2013年2月、2.2.5 の更新を追加
- 2013年4月、2.2.6 の更新を追加
- 2013年7月、2.2.7 の更新を追加

Oracle Hardware Management Pack リリースノート

Oracle Hardware Management Pack は、管理エージェントや構成ツールなど、Oracle サーバーの配備、構成、および管理に役立つコンポーネントを提供します。

これらのリリースノートには、Oracle Hardware Management Pack の 2.2.1、2.2.2、2.2.3、2.2.5、2.2.6、および 2.2.7 リリースに関する情報が記載されています。

このドキュメントは、次のセクションで構成されています。

- 7 ページの「ソフトウェアリリースの情報」
- 11 ページの「インストールの注意事項と問題」
- 17 ページの「ソフトウェアリリース 2.2.x の既知の問題と注意事項」
- 38 ページの「SPARC M5-32 サーバーでの Oracle Hardware Management Pack の使用」

ソフトウェアリリースの情報

このセクションでは、次の情報について説明します。

- 7 ページの「Release 2.2.1、2.2.2、および 2.2.3」
- 8 ページの「Oracle Hardware Management Pack 2.2.x での更新」
- 10 ページの「Hardware Management Pack のドキュメントの場所」
- 11 ページの「サポートされているサーバーとオペレーティングシステム」

Release 2.2.1、2.2.2、および 2.2.3

Oracle Management Pack Release 2.2.1、2.2.2、および 2.2.3 には同じ機能が含まれています。

- Release 2.2.1 は、一部のシステムに取り付けられている USB デバイスに埋め込まれた Oracle System Assistant イメージでのみ入手できます。Release 2.2.1 でサポートされているプラットフォームについては、8 ページの「追加されたプラットフォームサポート」を参照してください。
- Release 2.2.2 および 2.2.3 は、サポートされているすべてのシステムの My Oracle Support から入手できます。

My Oracle Support: <http://support.oracle.com>

Oracle Hardware Management Pack 2.2.x での更新

このセクションでは、Oracle Hardware Management Pack 2.2 および 2.2.x リリース (2.2.1、2.2.2、2.2.3、2.2.5、2.2.6、2.2.7 など) 間の変更点について説明します。

- 8 ページの「新機能」
- 8 ページの「追加されたプラットフォームサポート」
- 9 ページの「修正された問題」

新機能

次は、Oracle Hardware Management Pack 2.2.1/2.2.2/2.2.3 の新機能のリストです。

- `fwupdate`: Qlogic および Emulex 製のファイバチャネルカードを更新するためのサポートが追加されました。
- `ubiosconfig`: UEFI ベースのシステムで BIOS 設定を更新するための新しいツール。

次は、Oracle Hardware Management Pack 2.2.5 の新機能のリストです。

- `itpconfig`: ホストへの ILOM トラップの転送を可能にする新しいツール。
- `hwmgmtcli: open_problems` サブシステムが追加されました。

注 - これらの機能の詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp> にあるドキュメントを参照してください。

追加されたプラットフォームサポート

このセクションでは、2.2.x リリースごとの新しいプラットフォームサポートについて説明します。完全な製品サポート表は、次で入手できます。

<http://www.oracle.com/goto/system-management>

2.2.1 でサポートされる新しいプラットフォーム

Release 2.2.1 では、次のプラットフォームサポートが追加されました。

- Sun Fire X4170 M3 サーバー
- Sun Fire X4270 M3 サーバー
- Sun Fire X6270 M3 サーバーモジュール

2.2.2でサポートされる新しいプラットフォーム

Release 2.2.2では、次のプラットフォームサポートが追加されました。

- Sun Netra SPARC T4-1 サーバー
- Sun Netra SPARC T4-2 サーバー
- Sun Netra SPARC T4-1B サーバーモジュール
- Sun Netra X4270 M3 サーバー
- Sun Netra X6270 M3 サーバーモジュール

2.2.3でサポートされる新しいプラットフォーム

Release 2.2.3では、fwupdateを使用すると次のホストバスアダプタのファームウェアを更新できます。

- SGX-SAS6-INT-Z
- SGX-SAS6-EXT-Z
- SGX-SAS6-REM-Z
- SGX-SAS6-EM-Z

2.2.5、2.2.6、および2.2.7でサポートされる新しいプラットフォーム

Version 2.2.5、2.2.6、および2.2.7でサポートされるプラットフォームについては、次にあるサポート表を参照してください。

<http://www.oracle.com/goto/system-management>

修正された問題

修正された問題の総合的なリストについては、リリースごとの Read Me ファイルを参照してください。次のリストに含まれる問題は、リリースノートに以前記載されたものです。

次の問題は、2.2.6 リリースで修正されました。

- 7164682: 構成のインポートで、RAID ボリュームの読み取り/書き込み キャッシュの値が無視される
- 15776348、15785250、16203403: Version 2.2.5 で Oracle Hardware Management Pack 2.2.x を Oracle VM 3.0.2、3.1.1、3.2.1 システムにインストールするための依存関係 (詳細は、『Oracle Hardware Management Pack インストールガイド』を参照)。
- 16035437 および 16268348: SPARC システムでの fwupdate を使用した ILOM の更新 はリモートシステムから実行する必要がある

次の問題は、2.2.4 リリースで修正されました。

- 7164568: エラーメッセージが間違ったオプションを指定する

次の問題は、2.2.3a リリースで修正されました。

- 7184555: biosconfig.exe エラー「StartDriver: StartService failure!Error = 577」
- 7181669: Niwot-INT を搭載した X4270m2 での raidconfig のセグメント例外

次の問題は、2.2.3 リリースで修正されました。

- 7003873: SPARC T3 シリーズサーバーのほとんどのコンポーネントで sunHwMonFruManufacturer および sunHwMonFruDesc が空である
- 7143025: ILOM および BIOS ファームウェアの更新後に電源の再投入が必要である
- 7003873: SPARC T3 シリーズサーバーのほとんどのコンポーネントで sunHwMonFruManufacturer および sunHwMonFruDesc が空である

次の問題は、2.2.1/2.2.2 リリースで修正されました。

- 7092223: hwmgmtd のメモリー使用量が徐々に増えていく
- 6811841: Oracle Solaris Hardware Management Pack - sunHwTrapThresholdValue および sunHwTrapSensorValue が 0.0 に設定されている
- 6985009: Oracle Solaris および Windows システムで電源の自動再投入がサポートされていない
- 7003819: SPARC T3 シリーズサーバーで、サービスプロセッサのシリアル番号が sunHwMonSPSerialNumber.0 に見つからない

Hardware Management Pack のドキュメントの場所

Hardware Management Pack の完全なドキュメントは、次の Web 上にあります。

<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp>

- 『Oracle Hardware Management Pack 2.2 インストールガイド』(E26280) - Hardware Management Pack の各種コンポーネントの概要と Hardware Management Pack のインストール手順が記載されています。
- 『Oracle Server Management Agents 2.2 ユーザーズガイド』(E26285) - Sun Server Management Agents のインストールおよび構成について詳しく説明しています。これにより、ユーザーはオペレーティングシステムレベルで Sun サーバーを管理できます。
- 『Oracle Server CLI ツール 2.2 ユーザーズガイド』(E26290) - Sun Server CLI ツールおよび IPMItool のインストールおよび構成について詳しく説明しています。これらは、Sun サーバーを構成および管理するためのユーティリティを提供します。

サポートされているサーバーとオペレーティングシステム

Management Pack のすべてのコンポーネントは、すべてのサーバーおよび各サーバーでサポートされているすべてのオペレーティングシステムで使用できるとは限りません。また、raidconfig、fwupdate、ストレージビューアなどの一部の Management Pack コンポーネントは、すべてのサーバーおよびオペレーティングシステム上のすべてのストレージおよびハードウェアオプションをサポートしているとは限りません。

詳細は、次のサイトにある「HMP」タブの「View Support Matrices」リンクをクリックしてください。

<http://www.oracle.com/goto/system-management>

注 - Release 2.2.1 および 2.2.2 用の fwupdate ツールは、SGX-SAS6-INT-Z、SGX-SAS6-EXT-Z、SGX-SAS6-REM-Z、または SGX-SAS6-EM-Z ホストバスアダプタのファームウェアの更新をサポートしていません。これらの HBA のファームウェアの更新には LSI ユーティリティーを使用してください。

インストールの注意事項と問題

注 - Oracle ハードウェアは新しいバグ (変更追跡) システムに移行しました。このドキュメントでは、以前のシステムからのバグは「CR (変更リクエスト)」で指定されています。新しいバグシステムからのバグには「CR」の指定がありません。

次の項目は、Oracle Hardware Management Pack のインストールに影響を及ぼします。

問題	回避方法
12 ページの「Oracle HMP を Windows システムにインストールする前にホストと ILOM の相互接続を無効にする (16521844)」	いいえ
13 ページの「Oracle Solaris ゾーンでのインストール」	いいえ
13 ページの「ゾーンを持つ Oracle Solaris 11 システムへの Oracle HMP のインストール (16970964)」	いいえ
14 ページの「Windows 2012 でインストーラの GUI がサポートされていない (15820262)」	はい
14 ページの「インストールパスが変更されている」	いいえ

問題	回避方法
14 ページの「Oracle Solaris 11 x86 の hmp-tools-biosconfig パッケージがドライバとアプリケーションのパッケージに分かれている (CR 7181992)」	いいえ
15 ページの「Oracle Hardware Management Pack のアンインストールに install.bin -uninstall コマンドを使用できない (CR 7151642)」	はい
15 ページの「Oracle Linux 6.1 システムでの Hardware Management Pack インストーラの GUI には libXtst.i686 が必要である (CR 7129501)」	はい
15 ページの「Oracle Enterprise Linux 6 でインストーラの実行前に glibc.i686 をインストールする (CR 7045379)」	いいえ
16 ページの「Red Hat インストールの依存関係」	はい
16 ページの「インストールパスの問題」	いいえ
16 ページの「Hardware Management Pack のインストール時のソフトウェアが Windows ロゴのテストに合格しなかったという警告メッセージ (CR 6981579)」	いいえ
16 ページの「Windows Service Pack の更新が必要である」	いいえ
17 ページの「ILOM 3.0 および Windows Server 2003 R2」	いいえ

Oracle HMP を Windows システムにインストールする前にホストと ILOM の相互接続を無効にする (16521844)

Oracle HMP を Windows システムにインストールする際、ホストから ILOM へのインストール前にホストと ILOM の相互接続を Oracle ILOM から無効にする必要があります。そうしないと、構成に失敗する可能性があります。

ホストの相互接続を無効にするには

1. Oracle ILOM Web インタフェースにログインします。
2. 「ILOM Administration」 -> 「Connectivity」を選択します。
3. 「Local Host Interconnect」セクションで、「Configure」リンクを選択します。
4. 「Configure USB Ethernet Parameters」ダイアログで次を行います。
 - a. 「Host Managed」フィールドの「True」を選択します。
 - b. 「State」フィールドの「Enabled」を選択解除します。

注 - 「State」が「Enabled」に設定されている場合は、「Host Managed」ボックスを選択解除し、「Enabled」ボックスを選択解除してから、「Host Manage」の「True」ボックスを選択します。

Oracle Solaris ゾーンでのインストール

Oracle Hardware Management Pack (HMP) パッケージはすべての Oracle Solaris ゾーンにインストールされます。ゾーンを持つ Oracle Solaris 11 をインストールする特定の手順については、次を参照してください。

ただし、Oracle Solaris 10 および Solaris 11 の両方に含まれる Oracle HMP ユーティリティーには、非大域ゾーンでの機能に制限があるか、その機能がまったくありません。

次の Oracle HMP ユーティリティーは、非大域ゾーンで機能しません。

- biosconfig
- fwupdate
- raidconfig
- hwmgmtcli
- hwmgmtd
- Management Agent

これらのユーティリティーは、非大域ゾーンで LAN インタフェースが使用されている場合にのみ機能します。

- ipmitool
- ilomconfig
- ubiosconfig

ゾーンを持つ Oracle Solaris 11 システムへの Oracle HMP のインストール(16970964)

Oracle Solaris 11 の p5p の制約のため、ゾーンを持つ Oracle Solaris 11 システムに Oracle HMP をインストールするには、次の手順を使用する必要があります。

1. Oracle HMP のインストール前に、次のコマンドを実行します。

```
#pkgrepo create /var/tmp/OHMP (または定義済みのパス)
#pkgrecv -s path/oracle-hmp-2.2.7-SunOS-5.11.p5p -d /var/tmp/OHMP '*'
#pkg set-publisher -g file:///var/tmp/OHMP mp-re
```

2. 次のコマンドを使用して、目的のパッケージをインストールします。

```
#pkg install package name1 package name 2
```

Windows 2012 でインストーラの GUI がサポートされていない (15820262)

Oracle Hardware Management Pack インストーラの GUI が Windows 2012 システムでまだサポートされていません。

回避方法

Oracle Hardware Management Pack のインストールには、コンソールインストールモードを使用します。手順については、『Oracle Hardware Management Pack インストールガイド』を参照してください。

インストールパスが変更されている

Oracle Hardware Management Pack パッケージのインストールパスが変更されました。変更前:

```
/extract-directory/oracle-hmp-2.2/SOFTWARE/install.bin -i console
```

変更後:

```
/extract-directory/oracle-hmp-2.2/install.bin -i console
```

Oracle Solaris 11 x86 の hmp-tools-biosconfig パッケージがドライバとアプリケーションのパッケージに分かれている (CR 7181992)

Oracle Hardware Management Pack 2.2.3a 以降、hmp-tools-biosconfig パッケージは biosdrv および hmp-tools-biosconfig パッケージに分かれています。また、リブートしないで hmp-tools-biosconfig をアンインストールできるようになりました。

biosdrv はドライバです。それは、hmp-tools-biosconfig の次のインストールに備えて(めったに変更されることはないが) OS 上に保持できます。biosdrv のアンインストールにはリブートが必要です。

Oracle Hardware Management Pack のアンインストールに `install.bin -uninstall` コマンドを使用できない (CR 7151642)

`install.bin -uninstall` コマンドは、Hardware Management Pack のアンインストーラではなくインストーラを起動します。

回避方法

アンインストーラの起動には、次のコマンドを使用します。

- Oracle Solaris OS または Linux システムの場合: `/opt/sun-ssm/setup/uninstall`
- Windows システムの場合: `C:\Program Files\Oracle\Oracle Hardware Management Pack\setup\uninstall.exe`

Oracle Linux 6.1 システムでの Hardware Management Pack インストーラの GUI には `libXtst.i686` が必要である (CR 7129501)

Oracle Linux 6.1 が動作しているシステムで Hardware Management Pack インストーラの GUI を使用する場合は、次のコマンドを実行して `libXtst.i686` をインストールする必要があります。

```
yum install libXtst.i686
```

回避方法

GUI モードの代わりにコンソールインストールモードを使用します。

Oracle Enterprise Linux 6 でインストーラの実行前に `glibc.i686` をインストールする (CR 7045379)

Oracle Enterprise Linux 6 が動作しているシステムに Hardware Management Pack 2.2.1、2.2.2、または 2.2.3 をインストールする前に、`glibc.i686` をインストールする必要があります。

`glibc.i686` をインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
yum install glibc.i686
```

Red Hat インストールの依存関係

Red Hat Enterprise Linux での自動インストール中、Net-SNMP サービスは自動的に起動されません。Hardware Management Agent の実行前に、Net-SNMP サービスを再起動する必要があります。

回避方法

このサービスを再起動するには、次のコマンドを実行します。

```
service snmpd restart
```

インストールパスの問題

- どのオペレーティングシステムでも、Hardware Management Agent のインストールパスを変更する場合は、そのパスが70文字以内であり、空白を1つも含まず、? - _ ./のどの文字も含んでいないことを確認する必要があります。
- (CR 6982588) サイレントインストール用の応答ファイルの作成時は、絶対パスを使用して応答ファイルを作成する必要があります。例: `./install.bin -i GUI -r /tmp/response.txt`

Hardware Management Pack のインストール時のソフトウェアが Windows ロゴのテストに合格しなかったという警告メッセージ (CR 6981579)

Windows システムへの LAN-Over-USB ドライバのインストール時に、ソフトウェアが Windows ロゴのテストに合格しなかったという警告メッセージが表示されます。これはソフトウェアの操作に影響しないため、インストールを続行しても差し支えありません。

Windows Service Pack の更新が必要である

Oracle Hardware Management Agent のインストールでのエラーを回避するには、Microsoft 提供のセキュリティー更新がターゲットサーバーに必要です。セキュリティー更新のダウンロードサイトは次のとおりです。

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=766A6AF7-EC73-40FF-B072-9112BAB119C2>

ターゲットサーバーで、`vcredist_x86.exe` をダウンロードしてインストールします。

ILOM 3.0 および Windows Server 2003 R2

Hardware Management Agent を ILOM 3.0 で正しく動作させるためには、Microsoft ホットフィックス <http://support.microsoft.com/kb/982915> を Windows Server 2003 R2 にインストールする必要があります。

ソフトウェアリリース 2.2.x の既知の問題と注意事項

注 - Oracle ハードウェアは新しいバグ (変更追跡) システムに移行しました。このドキュメントでは、以前のシステムからのバグは「CR (変更リクエスト)」で指定されています。新しいバグシステムからのバグには「CR」の指定がありません。

このセクションでは、最新バージョンの Hardware Management Pack に関する既知の問題について説明します。適切な箇所には CR 参照番号が指定されています。Oracle サポートへの問い合わせには、これらの番号を使用してください。

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- 17 ページの「Management Pack の一般的な既知の問題」
- 19 ページの「ストレージビューアの既知の問題」
- 20 ページの「SNMP エージェントの既知の問題」
- 24 ページの「fwupdate の既知の問題」
- 29 ページの「raidconfig の既知の問題」
- 33 ページの「biosconfig の既知の問題」
- 34 ページの「ilomconfig の既知の問題」
- 35 ページの「ipmitool の既知の問題」
- 35 ページの「hwgmtcli の既知の問題」
- 36 ページの「hwgmtsd の既知の問題」

Management Pack の一般的な既知の問題

次の表に示されている問題は、Hardware Management Pack のすべてのツールに関連しています。

問題	回避方法
18 ページの「同じ種類の LSI ストレージコントローラを 17 台以上搭載したシステムでのセグメント例外 (16618057)」	いいえ
18 ページの「コマンドを実行するには作業用ディレクトリが書き込み可能である必要がある (16538678)」	はい

問題	回避方法
18 ページの「SPARC T3 システムで一部のユーティリティーの実行速度が遅い (CR 6984220、7010105、7031607、7092802)」	いいえ

同じ種類の LSI ストレージコントローラを 17 台以上搭載したシステムでのセグメント例外 (16618057)

同じ種類のストレージコントローラを 17 台以上搭載したシステムで `fwupdate`、`raidconfig`、`hwmgmtcli`、または `hwmgmt` を実行している場合は、セグメント例外が発生します。

コマンドを実行するには作業用ディレクトリが書き込み可能である必要がある (16538678)

`root` ユーザーが一時ファイルを書き込めるように、`ilomconfig`、`ubiosconfig`、および `fwupdate` コマンドの実行元のディレクトリが書き込み可能である必要があります。

そのディレクトリが書き込み可能でない場合は、次のエラーコードが表示されます。

26: Directory not writable

▼ 回避方法

- ディレクトリが書き込み可能になるようにディレクトリのアクセス権を変更します。

SPARC T3 システムで一部のユーティリティーの実行速度が遅い (CR 6984220、7010105、7031607、7092802)

SPARC T3 システムでの実行時に、`hwmgmt` ユーティリティーが正確な結果を表示しないことがあります。

Oracle Hardware Management Pack の他のユーティリティーの中には (`raidconfig` や `hwmgmtcli` など)、SPARC T3 システムでの実行速度が非常に遅いものもあります。

これらの問題は、CR 6937169 に記載されている Oracle Solaris の問題が原因で発生します。

▼ 回避方法

- 1 影響を受けているユーティリティーを無効にします。
- 2 次のコマンドを実行します。

注 - これらのコマンドを実行する前に、必ず mdb のドキュメントを注意してよくお読みください。

```
# mdb -kw
> ddi_aliases_present/W 0
```

- 3 そのユーティリティーを再度有効にします。

ストレージビューアの既知の問題

次の表に示されている問題は、ストレージビューアに関連しています。

問題	回避方法
19 ページの「Sun Flash Accelerator F20 PCIe カードの FDOM が /STORAGE に表示されない (CR 6955698)」	いいえ
19 ページの「Oracle Solaris で RAID 1 ボリューム用のグローバルホットスペアが専用ホットスペアとして表示される (CR 6877654)」	いいえ
19 ページの「Adaptec ディスクコントローラ (SGXPCIESAS-R-INT-Z) の使用時に max_disks プロパティーが正しくない (CR 6875715)」	いいえ
20 ページの「write_cache_enabled プロパティーが Adaptec コントローラ (SGXPCIESAS-R-INT-Z) で使用できない (CR 6873660)」	いいえ

Sun Flash Accelerator F20 PCIe カードの FDOM が /STORAGE に表示されない (CR 6955698)

Sun Flash Accelerator F20 PCIe カードの使用時に、ILOM の /STORAGE の下に FDOM が表示されません。

Oracle Solaris で RAID 1 ボリューム用のグローバルホットスペアが専用ホットスペアとして表示される (CR 6877654)

Sun Storagetek PCI-E SAS RAID HBA (SGXPCIESAS-R-INT-Z) を搭載した、RAID 1 (ミラー化) RAID 用のグローバルホットスペアが構成されている Oracle Solaris システムで Storage Management Agent を使用しているときに、ディスクの詳細が専用ホットスペアとして表示されます。

Adaptec ディスクコントローラ (SGXPCIESAS-R-INT-Z) の使用時に max_disks プロパティーが正しくない (CR 6875715)

Sun Storagetek PCI-E SAS RAID HBA (SGXPCIESAS-R-INT-Z) の max_disks プロパティーがストレージビューアに間違っして 0 として表示されます。

write_cache_enabled プロパティが Adaptec コントローラ (SGXPCIESAS-R-INT-Z) で使用できない (CR 6873660)

write_cache_enabled プロパティが Adaptec コントローラ (SGXPCIESAS-R-INT-Z) で使用できません。

SNMP エージェントの既知の問題

次の表に示されている問題は、SNMP エージェントに関連しています。

問題	回避方法
21 ページの「ILOM で使用可能な一部の SNMP トラップが Hardware Management Pack によって生成されない (CR 7005620)」	はい
21 ページの「Storage MIB の snmpwalk によってタイムアウトまたはエラーメッセージが発生する (CR 7015980)」	いいえ
21 ページの「SNMP トラップの問題」	はい
22 ページの「Sun X6250 サーバーモジュールが間違ったサービスプロセッサのバージョン番号を報告する」	はい
22 ページの「ブレードシャーシの共有コンポーネント上のセンサーの親の FRU 名が正しくない (CR 7008072)」	はい
22 ページの「SPARC T3 シリーズサーバーでディスクリット電圧センサーが間違って分類される (CR 7007522)」	はい
22 ページの「SunHwMonFruStatus がコンポーネントの障害状態を反映しない (CR 7007556)」	はい
23 ページの「SunHwMonInventoryTable が間違った数の DIMM を示す (CR 6846770)」	はい
23 ページの「SunHwMonDiscreteHardDriveSensorTable のセンサーが正しくない」	いいえ
23 ページの「ホストエージェントが間違った通知を生成することがある (CR 6992731)」	はい
23 ページの「センサーグループの問題に関する Windows での Hardware Management Agent の SNMP ウォーク (CR 6902930)」	はい
24 ページの「sunStorageVolumeOSMountPoint がマウントポイントを示していない (CR 6981973)」	いいえ
24 ページの「SPARC T3-2 システムの DiskOSDeviceName が正しくない (CR 6984216)」	はい

問題	回避方法
24 ページの「Storage MIB がデュアルパスティスクを公開しない (CR 6990667)」	はい

ILOM で使用可能な一部の SNMP トラップが Hardware Management Pack によって生成されない (CR 7005620)

Oracle ILOM で生成されることがある次の種類の SNMP トラップが Hardware Management Pack によって生成されません。

- ホストの状態変化に関して報告されるイベント
- 障害処理に関連するイベント
- プラットフォーム上のコンポーネントの存在の状態変化に関連するイベント

回避方法

この情報には、ILOM または SNMP インタフェースからアクセスできます。

Storage MIB の snmpwalk によってタイムアウトまたはエラーメッセージが発生する (CR 7015980)

SPARC システムで snmpwalk コマンドを Storage MIB とともに使用すると、ストレージ情報が表示されますが、出力の終わりにエラーメッセージまたはタイムアウトを受け取る可能性があります。

このエラーメッセージは無視しても差し支えありません。

SNMP トラップの問題

- 一部のプラットフォームで sunHwTrapProductName が空の場合があります。
- サービスプロセッサが ILOM 2.0 を実行している場合、sunHwTrapSystemIdentifier が空です。
- sunHwTrapAssocObjectId が常に SNMPv2-SMI::zeroDotZero に設定されます。
- sunHwTrapComponentName が、ILOM で使用される名前ではなくコンポーネントの IPMI 名に設定されます。
- Sun Fire X4200 M2 サーバーで、Hardware Management Agent が、sunHwTrapSlotOrConnectorOk または sunHwTrapSlotOrConnectorError の代わりに sunHwTrapComponentOK または sunHwTrapComponentError を送信しますが、それらは ILOM によって送信されるものです。

回避方法

この情報には、ILOM または SNMP インタフェースからアクセスできます。

Sun X6250 サーバーモジュールが間違ったサービスプロセッサのバージョン番号を報告する

Sun X6250 サーバーモジュールで古いサービスプロセッサファームウェアを使用して Hardware Management Agent を実行すると、間違ったサービスプロセッサのバージョンが報告されます。

回避方法

最新のファームウェアにアップグレードすることをお勧めします。

ブレードシャーシの共有コンポーネント上のセンサーの親の FRU 名が正しくない (CR 7008072)

ブレードシャーシの現場交換可能ユニット (FRU) 上のセンサーの sunHwMon...SensorParentFruName が間違って /SYS に設定されています。

回避方法

ILOM を使用して、これらのセンサーの正しい親の名前を確認します。

SPARCT3 シリーズサーバーでディスクリット電圧センサーが間違っ て分類される (CR 7007522)

SPARCT3 シリーズサーバーで、ディスクリット電圧センサーが間違っ
て分類され、sunHwMonDiscreteCurrentSensorTable ではなく
sunHwMonDiscreateOtherSensorTable に一覧表示されます。

回避方法

sunHwMonDiscreateOtherSensorTable を使用してディスクリット電圧センサーを表示
します。

sunHwMonFruStatus がコンポーネントの障害状態を反映しない (CR 7007556)

sunHwMonFruStatus で表されるコンポーネントのステータスは、そのコンポーネント
上のセンサーの累積ステータスです。このステータスは、ILOM のコンポーネントス
テータスとは異なる場合があります。

回避方法

ILOM をチェックして、コンポーネントに障害が発生しているかどうかを判断しま
す。

SunHwMonInventoryTable が間違った数の DIMM を示す (CR 6846770)

一部のプラットフォームで、システムに存在しない DIMM が sunHwMonInventoryTable に示されます。

回避方法

FruDescr、FruPartNumber、FruSerialNumber、および FruManufacturer オブジェクトを表示します。これらの値が入力されていれば、それらの DIMM はシステムに存在します。これらのオブジェクトが入力されていなければ、存在しない DIMM を示しているため、無視しても差し支えありません。

SunHwMonDiscreteHardDriveSensorTable のセンサーが正しくない

プラットフォームの制約のために、ホストに物理的に存在しないディスク用のセンサーが sunHwMonDiscreteHardDriveSensorTable に含まれていることがあります。これらのセンサーの ParentFruIndex は -1 であり、センサーの最後に STATE-HIDDEN が付いています。これらのセンサーは無視しても差し支えありません。

ホストエージェントが間違った通知を生成することがある (CR 6992731)

最新リリースの ILOM で定義されたすべてのデバイスタイプがホストエージェントによって認識されるわけではないため、結果として、ホストエージェントがデバイス固有の通知 (sunHwTrapSlotOrConnector など) ではなく、一般的な sunHwTrapComponent 通知を生成する場合があります。これは、スロットやコネクタではなくコンポーネントエラーが原因です。

回避方法

MIB からの NAC 名を使用して、通知の対象となる特定のデバイスを調べます。

センサーグループの問題に関する Windows での Hardware Management Agent の SNMP ウォーク (CR 6902930)

Windows オペレーティングシステムで Hardware Management Agent を使用すると、センサーグループにディスクリットセンサーが含まれている場合に、そのグループの SNMP ウォークによって空の文字列が返されます。

回避方法

回避方法は、Sun-HW-Monitoring MIB 全体の SNMP ウォークを実行することです。

sunStorageVolumeOSMountPoint がマウントポイントを示していない (CR 6981973)

sunStorageVolumeOSMountPoint がマウントポイントではなくデバイス名を報告します

SPARCT3-2 システムの DiskOSDeviceName が正しくない (CR 6984216)

SPARC T3-2 サーバーの DiskOSDeviceName が OSDeviceName として 02000000:0 および 02000000:2 を報告します。ホスト OS 上にそのような名前はありません。

回避方法

マルチパスディスクの場合、raidconfig はフルパス名の代わりにデバイスの WWN のみを返します。format コマンドは、このデバイスのフルパス名に WWN が組み込まれたものを返します。デバイスを相互に関連付けるには、WWN を使用します。

例:

- これは raidconfig を使用して得られるデバイスに関する情報です。Device: 5000CCA00A49BC1C
- これは format コマンドを使用して得られるデバイスに関する情報です。Device: c0t5000CCA00A49BC1Cd0

Storage MIB がデュアルパスディスクを公開しない (CR 6990667)

sunStorageDiskTable には、1 台の物理ディスクが 2 台のコントローラにデュアルパス化されたときの単一ディスクインスタンスしか示されません。

回避方法

ILOM を使用して、ディスクに関する正しい情報を確認します。

fwupdate の既知の問題

次の表に示されている問題は、fwupdate ツールに関連しています。

問題	回避方法
25 ページの「Sun Fire X4170 M2 サーバーで Oracle ILOM バージョンを更新するには電源の再投入が必要である (16562687)」	いいえ
26 ページの「2.2.5 では fwupdate を使用した SPARC システムでの Oracle ILOM の更新をリモートシステムから実行する必要がある (16035437 および 16268348)」	いいえ

問題	回避方法
26 ページの「Windows システムで Flash Accelerator F40 PCIe カードの fwupdate がサポートされていない (16278659)」	いいえ
26 ページの「fwupdate がデュアルポートの Emulex Pallene-E ホストバスアダプタの最初のポートのファームウェアしかアップグレードしない (CR 7193333)」	はい
27 ページの「Emulex のファイバチャネルカードが Oracle VM 3.1.1 で表示されない (CR 7167612)」	いいえ
27 ページの「ILOM および BIOS ファームウェアの更新後に電源の再投入が必要である (CR 7143025)」	はい
27 ページの「Emulex ファイバチャネルカードのファームウェアの更新時はエラーメッセージを無視してもかまわない (CR 7123663)」	いいえ
28 ページの「Oracle Enterprise Linux 6.0 が動作する Sun Fire X4270 M3 サーバーで、スロット 2 の Qlogic カードが表示されない (CR 7125910)」	はい
28 ページの「Sun StorageTek 6Gb/s SAS PCIe 内蔵 HBA (SGX-SAS6-INT-Z) 用に構成された内蔵エクスパンドのファームウェアの更新後はリブートが必要である (CR 6970551)」	はい
28 ページの「fwupdate がファームウェアをダウングレードできない (CR 6978199)」	はい
28 ページの「Windows 2008 R2 および OEL 5.4 で fwupdate update を使用して HDD のファームウェアを更新できない (CR 6952534)」	いいえ
29 ページの「Sun Flash Accelerator F20 PCIe カードの FDOM が ILOM で表示されない (CR 6955698)」	いいえ
29 ページの「IPMI の初期化によってエラーメッセージが fwupdate.log ファイルに出力される (CR 6986715)」	いいえ

Sun Fire X4170 M2 サーバーで Oracle ILOM バージョンを更新するには電源の再投入が必要である (16562687)

Sun Fire X4170 M2 サーバーで ILOM を 3.1.2.20 よりも以前のバージョンからバージョン 3.1.2.20 またはそれ以降にアップグレードするときは、サーバーの電源を再投入する必要があります。ファームウェアの更新後にサーバーの電源が自動的に再投入されるように設定されていない場合は、ホストの電源を切断し、数分後に再度電源を投入します。

2.2.5 では fwupdate を使用した SPARC システムでの Oracle ILOM の更新をリモートシステムから実行する必要がある (16035437 および 16268348)

Oracle Hardware Management Pack 2.2.5 の SPARC システムで、ターゲットホストからの Oracle ILOM および OBP の自動更新が正しく機能しません。ファームウェアを更新するには、-f オプションを使用して別のホストから fwupdate を実行します。

▼ 手順

- 1 ターゲットホストの電源を切断し、**Oracle ILOM** が動作していることを確認します。
- 2 別のシステムから、次のコマンドを使用して **Oracle ILOM** および **OBP** イメージを適用します。

```
fwupdate update sp-bios-firmware -n sp_bios -f ilom_obp_packagefile.pkg  
--remote-hostname=ilom_ip_address --remote-username=root
```
- 3 更新が完了し、**Oracle ILOM** がリセットされたあと、上記の **hostname** フィールド内の **Oracle ILOM IP** アドレスを使用して、ターゲットマシンで更新済みの **ILOM** にログインします。
- 4 **Oracle ILOM** のホスト電源設定を使用してホストの電源を再投入します。

Windows システムで Flash Accelerator F40 PCIe カードの fwupdate がサポートされていない (16278659)

Windows オペレーティングシステムが動作しているシステムに取り付けられた Flash Accelerator F40 PCIe カードの更新では、fwupdate が現在サポートされていません。

fwupdate がデュアルポートの Emulex Pallene-E ホストバスアダプタの最初のポートのファームウェアしかアップグレードしない (CR 7193333)

デュアルポートの Emulex Pallene-E ホストバスアダプタのファームウェアの更新時に、fwupdate はそのコントローラの最初のポートのファームウェアのみを更新するため、2 番目のポートが更新されません。

▼ 回避方法

- **Emulex OneCommand** ツールを使用して、2 番目のポートのファームウェアを手動で更新します。

Emulex のファイバチャネルカードが Oracle VM 3.1.1 で表示されない (CR 7167612)

Oracle VM 3.1.1 が動作しているシステムに Emulex のファイバチャネルカードが装着されている場合に、fwupdate がそのカードを認識しません。

ILOM および BIOS ファームウェアの更新後に電源の再投入が必要である (CR 7143025)

注 - これは Release 2.2.3 で修正されました。

fwupdate の自動リセットおよび電源再投入機能の問題が原因で、ILOM/BIOS ファームウェア更新の適用時にホストの電源再投入を手動で行う必要があります。

▼ 回避方法

- 1 **fwupdate** によってシステムをリセットするよう指示するプロンプトが表示されたら、**no** と応答します。
- 2 **OS** のシャットダウン手順を使用して、ホストの電源を正常に切断します。
BIOS の正常な更新が確実に行われるようにするため、この操作中にサーバーへの AC 電力を維持する必要があります。
- 3 システムの電源を投入します。
ILOM および BIOS ファームウェアが更新されます。

Emulex ファイバチャネルカードのファームウェアの更新時はエラーメッセージを無視してもかまわない (CR 7123663)

Emulex ファイバチャネルカード用にファームウェアの更新を行なっているときは、次のエラーメッセージが表示されることがありますが、無視してかまいません。

```
Updating c3: lpfc 0000:b0:00.0: 0:1306 Link Up Event in loop back
>>>> mode x1 received Data: x1 x1 x20 x1
>>>> lpfc 0000:b0:00.0: 0:1309 Link Up Event npiv not supported in loop
>>>> topology
>>>> lpfc 0000:b0:00.0: 0:(0):2858 FLOGI failure Status:x3/x18 TMO:x0
>>>> Success
```

Oracle Enterprise Linux 6.0 が動作する Sun Fire X4270 M3 サーバーで、スロット 2 の Qlogic カードが表示されない (CR 7125910)

fwupdate は、Oracle Enterprise Linux 6.0 が動作している Sun Fire X4270 M3 サーバーの
スロット 2 に装着されている Qlogic カードを表示できません。

回避方法

そのカードを別のスロットに移動します。

Sun StorageTek 6Gb/s SAS PCIe 内蔵 HBA (SGX-SAS6-INT-Z) 用に構成 された内蔵エクスパンダのファームウェアの更新後はリブートが 必要である (CR 6970551)

Sun StorageTek 6Gb/s SAS PCIe 内蔵 HBA (SGX-SAS6-INT-Z) が搭載された X4270 M2
サーバーで内蔵エクスパンダのファームウェアを更新したあと、reset コマンドに
よってサーバーが不安定になり、ハングアップする可能性があります。

回避方法

この問題を解決するには、サーバーをリブートします。

fwupdate がファームウェアをダウングレードできない (CR 6978199)

fwupdate を使用して Hitachi H101414SC 146 GB ディスクドライバ用のファームウェア
のダウングレードを試みた場合、更新が正常に行われたことを示すメッセージが表
示されることがありますが、fwupdate はこのデバイスでのファームウェアのダウ
ングレードをサポートしていません。

回避方法

現在のファームウェアバージョンを、更新するバージョンと比較します。現在の
バージョンの方が新しい場合は、ファームウェアを更新しないでください。

Windows 2008 R2 および OEL 5.4 で fwupdate update を使用して HDD のファームウェアを更新できない (CR 6952534)

Sun Fire X2270 M2 サーバーに次の HDD が取り付けられている場合、fwupdate update
を使用して HDD のファームウェアを更新できません。

- Windows システムの場合: Seagate モデル ST35000NSSUN500G および Hitachi モデル
HUA7210SASUN1.0T

- Linux システムの場合: Seagate モデル ST35000NSSUN500G

Sun Flash Accelerator F20 PCIe カードの FDOM が ILOM で表示されない (CR 6955698)

Sun Flash Accelerator F20 PCIe カードの FDOM が ILOM で表示されません。

IPMI の初期化によってエラーメッセージが fwupdate.log ファイルに出力される (CR 6986715)

Windows システムで fwupdate を実行すると、次のメッセージが表示されます。

```
fwupdate version 2.0.0
Wed Sep 22 15:23:26 2010:(CLI) Fishwrap version 4.0.1
Failed to initialize security (80010119)
```

このメッセージは無視してかまいません。

raidconfig の既知の問題

次の表に示されている問題は、raidconfig ツールに関連しています。

問題	回避方法
30 ページの「SPARC サーバーからディスクを取り外すと、raidconfig がハングアップする (15826569)」	はい
30 ページの「SPARC T5 サーバーで raidconfig が間違った RAID サポートを報告する (16284952)」	はい
31 ページの「SLES 11 SP 1 システムで、ディスクが消失することがある (15845681)」	はい
31 ページの「raidconfig コマンドの実行時のセグメント例外 (コアダンプ) (CR 7184299)」	はい
31 ページの「SLES 11 SP2 システムで SGX-SAS6-R-REM-Z が検出されない (CR 7171666)」	はい
32 ページの「SPARC システムの Oracle ILOM で RAID ポリウムが表示されないことがある (CR 7157555)」	はい
32 ページの「raidconfig が RAID ポリウムの間違ったデバイス名を示している (CR 7069378)」	いいえ
32 ページの「3 台以上のディスクを備えた RAID 1 ポリウムが正しく処理されない (CR 7099610)」	いいえ

問題	回避方法
32 ページの「RAID ボリュームでの init タスクの実行時に、ディスクに対する clear タスクの完了率が常に 0% を示す (CR 7091117)」	いいえ
32 ページの「Oracle Solaris OS サーバーで RAID の作成後に余分のコントローラが表示される (CR 7086105)」	はい
33 ページの「SGX-SAS6-R-REM-Z または SGX-SAS6-R-INT-Z の使用時に RAID ボリュームの Mounted プロパティーが表示されない (CR 6981973)」	はい
33 ページの「LSI REM で --name オプションを使って RAID ボリュームを作成したあと、ボリュームの名前が Null のままである (CR 6992358)」	いいえ
33 ページの「OS が VMWare ESX 3.5 Update 5 のときに、異なる RAID ボリュームのデバイス名が同じになる (CR 6992008)」	いいえ

SPARC サーバーからディスクを取り外すと、raidconfig がハングアップする (15826569)

RAID ボリュームの一部であるディスクを SPARC サーバーから物理的に取り外すと、raidconfig コマンドがハングアップします。

▼ 回避方法

- 次のいずれかを実行します
 - OS をリブートします (推奨)。
 - 約 10 分間待ちます。
- raidconfig コマンドを実行します。

SPARCT5 サーバーで raidconfig が間違った RAID サポートを報告する (16284952)

LSI 2308 コントローラを搭載した SPARC T5 サーバーの動作時に、raidconfig によって、そのコントローラが RAID レベル 0 および 1 のみをサポートし、レベル 0 および 1 の RAID ボリュームしか作成できないことが報告されます。しかし、このコントローラは RAID レベル 0、1、1E、および 10 をサポートしています。

回避方法

RAID ボリューム 1E および 10 を作成するには、LSI sas2ircu ツールを使用します。

SLES 11 SP1 システムで、ディスクが消失することがある (15845681)

SLES 11 SP1 システムで、RAID ボリュームに使用されるか、ホットスペアとして使用されるディスクが `raidconfig` のリスト出力に表示されないことがあります。

回避方法

更新済みの `mpt2sas` ドライバをインストールします。

`raidconfig` コマンドの実行時のセグメント例外 (コアダンプ) (CR7184299)

不良ディスクの交換後に `raidconfig list` コマンドを実行すると、セグメント例外 (コアダンプ) が発生することがあります。これは LSI SDK の問題が原因です。

回避方法

`lsiutil` を実行してイベントログをクリアします。次の例を参照してください。

```
# lsiutil
```

```
LSI Logic MPT Configuration Utility, Version 1.66, February 24, 2011
```

```
2 MPT Ports found
```

Port Name	Chip Vendor/Type/Rev	MPT Rev	Firmware Rev	IOC
1. mpt_sas0	LSI Logic SAS2008 B2	200	05050000	0
2. mpt_sas1	LSI Logic SAS2008 B2	200	05050000	0

```
Select a device: [1-3 or 0 to quit] 1 <-- select 1st controller
```

```
Main menu, select an option: [1-99 or e/p/w or 0 to quit] e
```

```
...
```

```
35. Display HBA firmware Log entries
```

```
36. Clear (erase) HBA firmware Log entries
```

```
...
```

```
Main menu, select an option: [1-99 or e/p/w or 0 to quit] 35 <- display
```

```
Main menu, select an option: [1-99 or e/p/w or 0 to quit] 36 <- clear
```

SLES 11 SP2 システムで SGX-SAS6-R-REM-Z が検出されない (CR7171666)

SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 SP2 が動作するシステムで、装着されている SGX-SAS6-R-REM-Z HBA が `raidconfig list controller` コマンドで表示されません。

回避方法

Oracle ILOM を使用して SGX-SAS6-R-REM-Z HBA を表示します。

SPARC システムの Oracle ILOM で RAID ボリュームが表示されないことがある (CR 7157555)

raidconfig を使用して作成した RAID ボリュームが、Oracle ILOM の /STORAGE ターゲットの下に表示されないことがあります。

回避方法

新しく作成したボリュームを表示するには、**raidconfig list all** コマンドを使用します。

raidconfig が RAID ボリュームの間違ったデバイス名を示している (CR 7069378)

一部の RAID ボリュームでは、raidconfig によって、先頭に余分の文字「t」が付いた RAID ボリュームが示されます。

3 台以上のディスクを備えた RAID 1 ボリュームが正しく処理されない (CR 7099610)

SGX-SAS6-R-INT-ZHBA の場合、RAID 1 ボリュームの作成には 3 台以上のディスクを使用できます。

RAID ボリュームでの init タスクの実行時に、ディスクに対する clear タスクの完了率が常に 0% を示す (CR 7091117)

RAID ボリュームで init タスクが実行されているときに、その RAID ボリューム内のディスクに対して clear タスクが開始されます。init タスクが終了するまで、clear タスクの完了率が常にゼロを示しています。

回避方法は必要ありません。

Oracle Solaris OS サーバーで RAID の作成後に余分のコントローラが表示される (CR 7086105)

Oracle Solaris OS サーバーで、raidconfig create raid コマンドを使用して RAID ボリュームを作成したあとに、余分のコントローラが raidconfig list all コマンドの出力に表示されることがあります。これは、raidconfig が古い情報を使用して、Oracle Solaris OS で使用できなくなったディスクを報告したためです。

回避方法

OS をリブートして、古いディスク情報をクリーンアップします。

SGX-SAS6-R-REM-Z または SGX-SAS6-R-INT-Z の使用時に RAID ボリュームの Mounted プロパティが表示されない (CR 6981973)

SGX-SAS6-R-INT-Z HBA または SGX-SAS6-R-REM-Z の使用時に作成された RAID ボリュームに Mounted プロパティがありません。raidconfig はマウント済みのボリュームが削除されるのを防ぎません。

▼ 回避方法

- 1 **raidconfig** コマンドを使用して、RAID ボリュームのデバイス名を取得します。
- 2 **mount** コマンドの出力で、手順 1 で取得したデバイス名のインスタンスを調べます。
- 3 **mount** コマンドの出力にデバイス名が存在する場合、RAID ボリュームは現在マウントされているため、**raidconfig** を使用して削除しないようにします。
- 4 最初に RAID ボリュームをアンマウントしてから、**raidconfig** を使用してそのボリュームを削除します。

LSI REM で --name オプションを使って RAID ボリュームを作成したあと、ボリュームの名前が Null のままである (CR 6992358)

raidconfig を ---name オプションとともに使用して RAID 0/1 拡張モジュール (X4607A) に RAID ボリュームを作成したあと、その RAID ボリュームは正常に作成されているのに RAID ボリューム名が Null のままになっています。

OS が VMWare ESX 3.5 Update 5 のときに、異なる RAID ボリュームのデバイス名が同じになる (CR 6992008)

VMWare ESX 3.5 Update 5 が動作しているサーバーの RAID 拡張モジュール (X4620A) に 2 つの RAID ボリュームを作成すると、それらの RAID ボリュームのデバイス名が同じになります。

biosconfig の既知の問題

次の表に示されている問題は、biosconfig ツールに関連しています。

問題	回避方法
34 ページの「Sun Server X3 シリーズの UEFI プラットフォームで biosconfig がサポートされていない (7191812)」	
34 ページの「Oracle VM 3.1.1 システムで biosconfig が断続的に失敗する (CR 7167479)」	はい

問題	回避方法
34 ページの「Windows Server 2008 x64 SP2 のドライバ警告 (CR 6944248)」	はい

Sun Server X3 シリーズの UEFI プラットフォームで biosconfig がサポートされていない (7191812)

Sun Server X3 シリーズサーバーまたはサーバーモジュールで UEFI BIOS が動作している場合は、biosconfig がサポートされません。

回避方法

これらのプラットフォームで BIOS を構成するには、ubiosconfig ツールを使用します。

Oracle VM 3.1.1 システムで biosconfig が断続的に失敗する (CR 7167479)

Oracle VM 3.1.1 システムで、biosconfig コマンドがセグメント例外で失敗することがあります。

例:

```
# biosconfig -get_bios_settings
Segmentation fault
```

この障害の発生頻度は非常に低いです (100 回のうち 2、3 回)。

回避方法

biosconfig コマンドを再度実行します。

Windows Server 2008 x64 SP2 のドライバ警告 (CR 6944248)

Windows Server 2008 x64 SP2 で biosconfig を使用しているときに、発行元不明のドライバ警告が表示されることがあります。この警告は無視しても差し支えありません。

ilomconfig の既知の問題

次の表に示されている問題は、ilomconfig ツールに関連しています。

問題	回避方法
35 ページの「ILOM 3.0.9 の使用時に ilomconfig コマンドが失敗することがある (CR 6962179)」	はい

ILOM 3.0.9 の使用時に ilomconfig コマンドが失敗することがある (CR 6962179)

Version 3.0.9 以前の ILOM には、ilomconfig コマンドが「Cannot connect to BMC」というエラーで失敗する原因となり得る制約があります。これらのエラーは、複数のプログラムが ILOM の IPMI インタフェースへのアクセスを試みる場合に発生することがあります。

このようなエラーが発生した場合、ILOM はこのエラーを修復する必要があります。この修復は、ILOM が提供するサービスに 1-2 分の混乱が生じることを意味している可能性があります。

回避方法

このエラーを回避するには、ilomconfig の使用前に Hardware Management Agent および Storage Monitoring Agent を無効にします。また、ilomconfig の実行時に、ILOM への他のすべての IPMI アクセス (ipmitool の使用など) を行わないようにします。

ipmitool の既知の問題

次の表に示されている問題は、ipmitool に関連しています。

問題	回避方法
35 ページの「SPARC T3-4 ホストに電源が入っているときに SP をブートすると、ipmitool エラーが発生することがある (CR 7011416)」	はい

SPARCT3-4 ホストに電源が入っているときに SP をブートすると、ipmitool エラーが発生することがある (CR 7011416)

SPARC T3-4 ホストの電源が入っているときに SP をブートすると、次のエラーが表示されることがあります。

```
SP communication failure....Please start IPMI
```

この状態では ipmitool は機能しません。

回避方法

このエラーが発生した場合は、ホストをリブートしてエラーをクリアします。

hwmgmtcli の既知の問題

次の表に示されている問題は、hwmgmtcli に関連しています。

問題	回避方法
36 ページの「Sun Blade X6270 M2 サーバーで <code>hwmgmtcli</code> を実行すると、シャーシ情報に関するエラーメッセージが返されることがある (CR 7123164)」	はい
36 ページの「Sun Blade X6270 M2 で間違っただシャーシデータが示される (CR 7074477、7082315、7082300)」	はい

Sun Blade X6270 M2 サーバーで `hwmgmtcli` を実行すると、シャーシ情報に関するエラーメッセージが返されることがある (CR 7123164)

`hwmgmtcli` コマンドを実行すると、次のようなシャーシ情報に関するエラーが返されます。

```
Chassis Model: ERROR
Chassis Address: ERROR
```

回避方法

このエラーを回避するには、Oracle ILOM 3.1 にアップグレードします。

Sun Blade X6270 M2 で間違っただシャーシデータが示される (CR 7074477、7082315、7082300)

Sun Blade X6270 M2 サーバーモジュールで `hwmgmtcli` コマンドを使用してシャーシ情報を表示すると、シャーシに関する一部の情報が欠けています。

回避方法

Oracle ILOM CMM を使用してシャーシ情報を表示します。

`hwmgmtd` の既知の問題

次の表に示されている問題は、`hwmgmtd` に関連しています。

問題	回避方法
37 ページの「Red Hat Linux 6.4 システムでの <code>hwmgmtd</code> に関する IPMI ドライバの問題 (16975947)」	はい
37 ページの「 <code>hwmgmtd</code> によってシステムログメッセージが生成されることがある (CR 7164577)」	いいえ
37 ページの「Windows システムで <code>hwmgmtd</code> のメモリー使用量が徐々に増えていく (CR 7107487)」	はい

問題	回避方法
38 ページの「Oracle Hardware Management Pack 2.2.1 または 2.2.2 が ESX 3.5 サーバーにインストールされると hwmgmt が起動しない (CR 7084494)」	はい

Red Hat Linux 6.4 システムでの hwmgmt に関する IPMI ドライバの問題 (16975947)

Red Hat Linux 6.4 システムで Hardware Agent (hwmgmt) を起動すると、IPMI ドライバがオフラインになることがあります。この問題は、openIPMI IPMI ドライバを使用する Red Hat Linux 6.4 にのみ関係しています。

回避方法

エージェントの起動から 30 秒以内に、次のコマンドを使用して IPMI ドライバを起動します。

```
/etc/init.d/ipmi start
```

これにより、IPMI サービスが回復され、エージェントはアクティビティを再開できるようになります。

hwmgmt によってシステムログメッセージが生成されることがある (CR 7164577)

hwmgmt が停止されると、hwmgmt によって次のメッセージがシステムログに送信されることがあります。

```
kernel: Process 2355(hwmgmt) has RLIMIT_CORE set to 0
kernel: Aborting core
```

これらのメッセージは無視しても差し支えなく、機能にも影響しません。

Windows システムで hwmgmt のメモリー使用量が徐々に増えていく (CR 7107487)

hwmgmt が Windows システムで動作しているときに、そのデーモンが使用するメモリーが徐々に増えていきます。

回避方法

Windows システムでは、メモリー使用量がフラッシュされるように、hwmgmt が 24 時間ごとに自動的に再起動されます。hwmgmt が再起動したことを示すメッセージがログに表示されます。

Oracle Hardware Management Pack 2.2.1 または 2.2.2 が ESX 3.5 サーバーにインストールされると hwmgmt が起動しない (CR 7084494)

ESX 3.5 が動作しているシステムに Management Pack 2.2.1 または 2.2.2 をインストールしたあと、hwmgmt が自動的に起動しません。

回避方法

hwmgmt エージェントを手動で起動します。hwmgmt を手動で実行する方法の詳細は、『Oracle Server Management Agents 2.2 ユーザーズガイド』を参照してください。

SPARC M5-32 サーバーでの Oracle Hardware Management Pack の使用

次の各セクションには、SPARC M5-32 サーバーで Oracle Hardware Management ツールを使用するための特定の情報が記載されています。

- 38 ページの「[ilomconfig \(16369886\)](#)」
- 40 ページの「[hwmgmtcli \(16507559\)](#)」
- 40 ページの「[itpconfig \(16508501、16507898\)](#)」
- 40 ページの「[hwmgmt \(15824059、15824037\)](#)」

ilomconfig (16369886)

SPARC M5-32 サーバーのシャーシには、1 組のデュアル冗長 SP (SP0 および SP1) が格納されています。さらに 4 台の SP プロキシ (SPP0、SPP1、SPP2、SPP3) も搭載されています。

ホスト OS は SP からすべての Oracle ILOM プロパティに直接アクセスできるわけではないため、ilomconfig ではなく Oracle ILOM を使用して SP から ILOM プロパティにアクセスする必要があります。

SPARC M5-32 サーバーでは、Oracle Solaris ホスト OS は SPP で動作します。ilomconfig は、Oracle Solaris ホスト OS から Oracle ILOM SPP にアクセスします。

次の表で、SP と SPP のプロパティを説明します。

サービスプロセッサの種類	説明	SP にアクセスするためのツール
SP0、SP1 (冗長サービスプロセッサ)	これらは、標準の Oracle ILOM プロパティをすべて備えた主要なサービスプロセッサです。SP は SPP を管理します。	Oracle ILOM

サービスプロセッサの種類	説明	SP にアクセスするためのツール
SPP0、SPP1、SPP2、SPP3 (サービスプロセッサプロキシ)	各 SPP はドメイン構成可能ユニット (DCU) をモニターします。ホスト OS は SPP で動作します。	ilomconfig

注 - SPARC M5-32 サーバーの詳細は、<http://www.oracle.com/goto/M5-32/docs> にある SPARC M5-32 サーバーのドキュメントを参照してください。

SPARC M5-32 サーバーの SPP から使用できないプロパティ

次の表に、SPARC M5-32 サーバーの SPP から使用できない Oracle ILOM プロパティを示します。

ILOM プロパティ	ilomconfig の機能
/SP/config	エクスポート、インポート
/SP/users	ユーザー
/SP/services/snmp/communities	SNMP コミュニティ
/SP/network/pending	ネットワーク管理 (読み取り専用)

SPARC M5-32 サーバーのプラットフォームでサポートされている ilomconfig コマンド

SPARC M5-32 サーバーでは、次の ilomconfig サブコマンドおよびターゲットがサポートされています。

- list サブコマンドのターゲット:
 - system-summary
 - network
 - network-ipv6
 - interconnect
 - identification
- enable サブコマンドのターゲット:
 - interconnect
- disable サブコマンドのターゲット:
 - interconnect
- modify サブコマンドのターゲット:
 - interconnect

- identification
- create サブコマンドのターゲット:
 - credential
- delete サブコマンドのターゲット:
 - credential

hwmgmtcli (16507559)

SPARC M5-32 サーバーなどのマルチドメインシステム用に新しいサブシステムが追加されました。

dcu - DCU サブシステムの詳細を表示します。

SPARC M5-32 サーバーに関して `open_problem`、`health`、および `health_details` の情報が表示可能ですが、そのデータは現時点では信頼できません。

itpconfig (16508501、 16507898)

SPARC M5-32 サーバーでは、障害のあるプロキシを使用可能にすることはできません。これらのサーバーの SPP には Oracle ILOM のアラート管理が備わっておらず、SP と OS 間のホストと ILOM の相互接続も存在しないため、このツールを機能させる方法がありません。

hwmgmtd (15824059、 15824037)

SPARC M5-32 サーバーでは、hwmgmtd を使用してストレージ情報を Oracle ILOM に提供できますが、hwmgmtd の SNMP エージェント機能は誤りのあるデータを提供するため、使用しないでください。